

#### (4) アロマセラピーと理学療法の併用の試み

ハーベスト医療福祉専門学校 理学療法学科 大槻 桂右

##### 【要旨】

【はじめに】近年、アロマセラピーは産婦人科医院を中心に医療分野に広がりを見せている。また脳卒中リハビリテーションの重要な一部として、臨床レベルでその可能性を追及している病院もある。さらに、ペインクリニック領域では、補完代替医療として積極的な臨床導入も進んでいる。本研究は慢性疼痛患者2例に対して、アロマセラピーを実施し、理学療法との併用を試みた。その結果、若干の知見を得たので、文献的考察を加えて検討した。

【対象と方法】症例1では、ラベンダー精油(1%希釈)の吸引による心拍数の変化と Visual Analog Scale (VAS) で表現された主観的な痛みの変化を検討した。症例2では、ラベンダー精油によるアロマ・マッサージ後の VAS の変化と理学療法実施後の VAS の変化を検討した。実験デザインは AB 型シングルケースデザインを用いた。シングルケースデザインとは、1 症例における介入(独立変数)前後の変化(従属変数)を科学的に分析する方法であ

る。データ解析は原則、目視にて検討した。データが目視にて判定できない場合、二項検定にて検討し、5%未満を有意とした。

【結果】症例1におけるラベンダー精油の吸引結果、心拍数は低下傾向を示したが、二項検定の結果、有意差は認められなかった。また VAS の値も有意に低下したとはいえない結果となった。症例2ではアロマ・マッサージの結果、VAS の値は大きく低下していると判定できた。その後の理学療法によっても VAS の値はさらに低下していると判定できた。

【結論】2 症例の異なるアロマセラピーの介入効果についてシングルケースデザインを用いて検討した。ラベンダー精油の匂いを嗅ぐだけでは、期待した生理学的変化はみられなかった。しかし、アロマ・マッサージにてラベンダー精油の経皮的な吸収を促すと VAS の低下がみられた。アロマセラピーにて改善する痛みと理学療法にて改善する痛みの違いを明確して、臨床活動に生かしていきたい。